

# 最先端電池 米沢に新拠点

## エナックス(東京) 10月完成



エナックスが整備を進めているリチウムイオン電池の新たな開発製造拠点＝米沢市万世町桑山

## EV用など 置賜への集積加速

電気自動車(EV)などに使われるリチウムイオン電池を開発するエナックス(東京、三枝雅貴社長)は約20億円を投じ、最先端分野の新たな開発製造拠点を米沢市内に設ける方針であることが28日、同社への取材で分かった。地元中心に20人程度の新規採用を予定。置賜地方では、世界規模で市場が拡大する蓄電分野の拠点整備が進んでおり、集積がさらに加速するとみられる。

充電式大型リチウムイオン電池の世界市場はEVの普及などで、今後も大幅な拡大が確実視され、研究、開発競争も激化している。

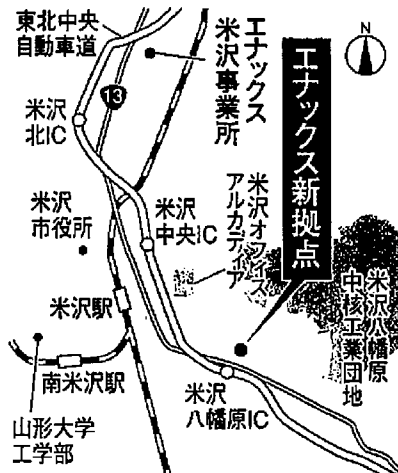
こうした状況を受け、同社は戦略的投資の一環として、現在の米沢事業所(同市窪田町)に加え、同市万世町桑山に開発製造拠点を新設することを決めた。

新拠点では独自の超高速充・放電技術を生かし、技術的難易度が極めて高い一方、将来的に大きな成長が期待される先端電池の開発、生産を一貫して行う。

用途としては次世代電気自動車(XEV)向けのスーパーハイレート電池や産業用ドローン、重い荷物を運ぶ際に動作を補助する「アシストスーツ」用の特殊電池などが挙げられるという。県や米沢市も支援に乗り出す構え。また、同社は山形銀行とコンサルタント契約を結ぶ予定で、人材育成、地域企業との連携を深めていく上で支援を求める。

用地は約4100平方メートル、地元企業の倉庫を賃貸する。建物は鉄骨造り2階建てで、総床面積は約3400平方メートル。既に今年2月から改装、増築しており、10月に完成する見通し。11月にはサンプル出荷を始め

置賜地方は同市の山形大学工学部を中心に、飯豊町にある「同大XEV飯豊研究センター」や同大発のベンチャー企業「飯豊電池研究所」が稼働している。さらに、同大と山形銀行が内外の機械・化学メーカーと連携し、電池材料の製造メーカーの立ち上げも進めるなど、先端分野の施設集積が進んでいる。



Q エナックス 1996年設立で、2015年から積水化学グループに入った。県内で稼働する唯一のリチウムイオン電池開発業者。高入出力性、急速充電性、広い使用温度域(マイナス30〜80度)など、国内大手自動車会社などから寄せられる難易度の高いニーズに対応し、開発、検証、生産まで一貫して行っている。資本金は30億3100万円。